

1 主 題 日ごろ世話になっている人々に感謝しよう <B-(7) 感謝>

2 資料名 「6ねんせいのおにいさん」 自作資料

3 主題設定の理由

- (1) 本学級の児童は、入学当初から仲の良い児童が多く、休み時間には、遊具遊びより鬼ごっこをして遊ぶ児童のほうが多い。また、困っている児童に優しく手助けすることができる児童が多い。1学期末に転入生が来た時には、多くの児童が、転入生に学校の仕組や教室の場所を教えている姿が見られた。このように、同じ年齢の中では、仲良く関わっている。しかし、学校生活では同じ年齢の「横の関わり」だけでなく、上の学年と関わる「縦の関わり」がある。入学してからの約7ヶ月、他学年と関わる機会がたくさんあったが、その中でも1学期、6年生とは特に深く交流してきた。ペア学年行事として遊ぶ会やプール開きを一緒に行ったり、日常的に掃除の手伝いや歯磨きの指導で関わってきたりした。そういった関わりから、児童たちは、6年生に対して慣れ親しみ、自分たちからも話しかけられるようになってきた。しかし、最近では「親しみ」が「甘え」に変わってしまい、「してもらって当たり前」と考えている児童が多いように感じられる。そのため、感謝の言葉が自然には出てこず、こちらから促して気付かせるようにしている。また、1年生は、1学期は覚えることが多く、学級のことや自分のことだけしか考えられなかった。しかし、2学期になり、1年生としての生活も半分過ぎた今、身近に関わる上級生に対して「お世話になってきた」ということを自覚し感謝する心をもたせたい。そして、感謝しお礼の言葉を述べるだけでなく、成長した姿を見せるという具体的な形で伝えられるようになって欲しい。
- (2) 本資料は、日常的な6年生との関わりの中で自分たちに身近な場面を抽出し、作成した自作の資料である。中心人物の「けんたさん」は、6年生がいつも掃除を手伝いに来てくれている姿を「当たり前」と捉えている1年生の男の子である。細かく掃除の仕方を教えてくれる「しんじお兄さん」が、ある日突然、掃除の時間に来ず、その日の掃除が非常に大変だったというところで資料は終わっている。今までお世話になっていたことを棚に上げて、6年生に不平不満をもつのか、来なかったことを心配するのか、自分たちだけでも頑張ろうとするのかと、多様に考えられるけんたさんの葛藤を自分事として考えられる構成になっている。そういった多様な意見の中で、自分たちが普段から当たり前のようにやっていたことに対して、感謝の気持ちを自分ももていなかった「けんたさん」の気付きを、資料を通して追っていきたい。それによって、自分たち自身の甘えや未熟さに気付くとともに、6年生への尊敬や感謝の気持ちをもてるようにしていきたい。
- (3) B-(7)感謝では、「日ごろ世話になっている人々に感謝する。」と示されている。感謝という気持ちは、自分と他人と最低でも2人いないと成立しない感情である。感謝の念をもつためには、身近で日ごろ世話になっている人々の存在を知り、その善意に気が付かなければならない。それは、よりよい人間関係を育む基礎となり、より良く生きるために必要不可欠なことだと言える。しかし、こういったことに感謝すべきかということは、その都度知らなければ難しく、見過ごしてしまったり、分からないままになったりしてしまう。そのため、感謝が必要な場面を、より自分たちに近い形で聞き、自分ごととし

で考えていかなければならない。こういったことは、日常の指導で個別に行うことが多いが、それだけでは、教師の思いを押し付けてしまう恐れがある。問題解決的な学習によって、自分たちで感謝すべき対象に気付き、どのようにその気持ちを伝えていくかを考えさせる機会が必要である。

本時では、けんたさんの気持ちを追っていく中で、6年生のしんじお兄さんが普段手伝ってくれていたことは、当たり前のことではないと気付かせたい。そして、けんたさんが、しんじお兄さんに伝えたいことを考えさせる活動を通して、それを具体的に言葉にしたり、行動したりして伝える大切さに気付かせたい。

4 人権教育上の観点

(1) 自己表現力の育成

- ・ 自分の考えをまとめ、わかりやすく表現し伝える力や、相手の考えを共感的に受容し対応する力を育てる。(視点②)

(2) 人間関係力の育成

- ・ 互いの考え方の違いを認め合い、よりよい人間関係を築くことができる力を育てる。(視点④)

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 6年生にお世話になっているということを実感したけんたさんの姿を通して、日ごろからお世話になっている6年生に感謝する気持ちを育てる。

(2) 準備・資料

- ・ 教師…場面絵、センテンスカード、ホワイトボード、写真、電子黒板
- ・ 児童…赤白帽子

(3) 指導過程

段階 時間	学 習 活 動	留意点 [支]支 援 [人]人権的教育配慮 評 価
方 向 づ け る 5 分	1 写真を見て、どんな時のことか思い出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生との遊ぶ会のとき ・ わくわくプール開きのとき ・ 歯磨きのとき ・ 掃除のとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生と関わってきた写真を何枚か用意し、自分たちがいかに6年生と関わっているかを自覚できるようにする。 ・ その時行ったことや気持ちや考えを簡単に押さえ、感情を共有する。
	2 本資料を聞き、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料に興味をもつことができるように、教師が読み語りをする。 [支]物語の内容が視覚的に分かるように、場面絵やセンテンスカードを掲示する。 ・ 本時の発問につながる重要な出来事は強調して読む。 ・ 中心発問を意識できるよう掲示する。

けんたさんは、おにいさんがいないままそうじのじかんがおわってしまったとき、どんなことをおもったでしょう。

- ・ すごく掃除が大変だったな。
- ・ 大丈夫かなあ。
- ・ なんで来てくれないんだよ。
- ・ いつもは早く終われるのにな。

3 資料の続きを聞き、6年生への感謝の気持ちを言葉にする。

○ 自分がけんたさんなら、しんじお兄さんになんと言いますか。

- ・ いいよ。いつもありがとう。
- ・ これからはもっと頑張ります。
- ・ 掃除たいへんだったよ。お兄さん、いつも手伝ってくれてありがとう。

4 6年生への具体的な感謝の表し方を考える。

○ どんなことをしたら、6年生は喜ぶと思いますか。

- ・ お礼を言う。
- ・ 手紙を書く。
- ・ 一緒に遊ぶ。
- ・ 自分たちで頑張って掃除する。

【教師の切り返し発問】

- どうして大変だと感じたのかな。
- どうして来られなかったのかな。
- どうしてそう思ったの。
- 早く終われるのはどうしてかな。
- ・ 切り返して意見を深め、「6年生がいるおかげ」「1年生のためにやってくれている」という気持ちをもっていることに気付かせ、感謝の気持ちをもてるようにする。
- ・ すべての意見を突き詰めていくと、感謝にたどり着くことを板書で表す。

[人]全体に伝わりづらい発言には言葉を付け足ししながら、どんな考えも共感的に受け止め、板書する。②

【関心・意欲・態度】

- ・ 6年生に助けられていることを自覚できる。
- [C の状況への手だて：切り返しの発問でねらいの価値に迫れるようにする。]

- ・ 赤白帽子を使い、自分が何役か分かるようにする。
- ・ ペアで役割演技を行い、感謝の言葉をより具体的に考えられるようにする。また、何人かを指名し、前で発表してもらおう。
- ・ 似ている言葉は、今までの意見に黄色のチョークで書き加えていく。

[支]手が挙がらないときには、今までの意見を振り返り、考えやすいよう支援する。

[人]友達の見聞を聞いたり、基にして発言したりしている児童の姿を取り上げ、認めていく。④

【教師の切り返し発問】

- いろんなことが書きたいの。
- 前と同じように6年生にやってもらおうの。
- 6年生にどんな気持ちでやるのかな。

35分		<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的に感謝の気持ちを伝える方法を考えている。 <p>[Cの状況への手だて：具体的なことが思いつかない児童には、どんなことができるかを考えさせる。]</p>
まとめ5分	<p>5 6年生からのビデオレターを見る。</p> <p>6 今後どうしたいか考え、計画することを告知する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオレターを流し、6年生が何のために掃除を手伝ってくれているのか、6年生の気持ちを確認する。 ・ 子どもたちの意見を取り上げ、今後の学級活動で話し合いを進めていくことを告知する。

(4) 本時の評価

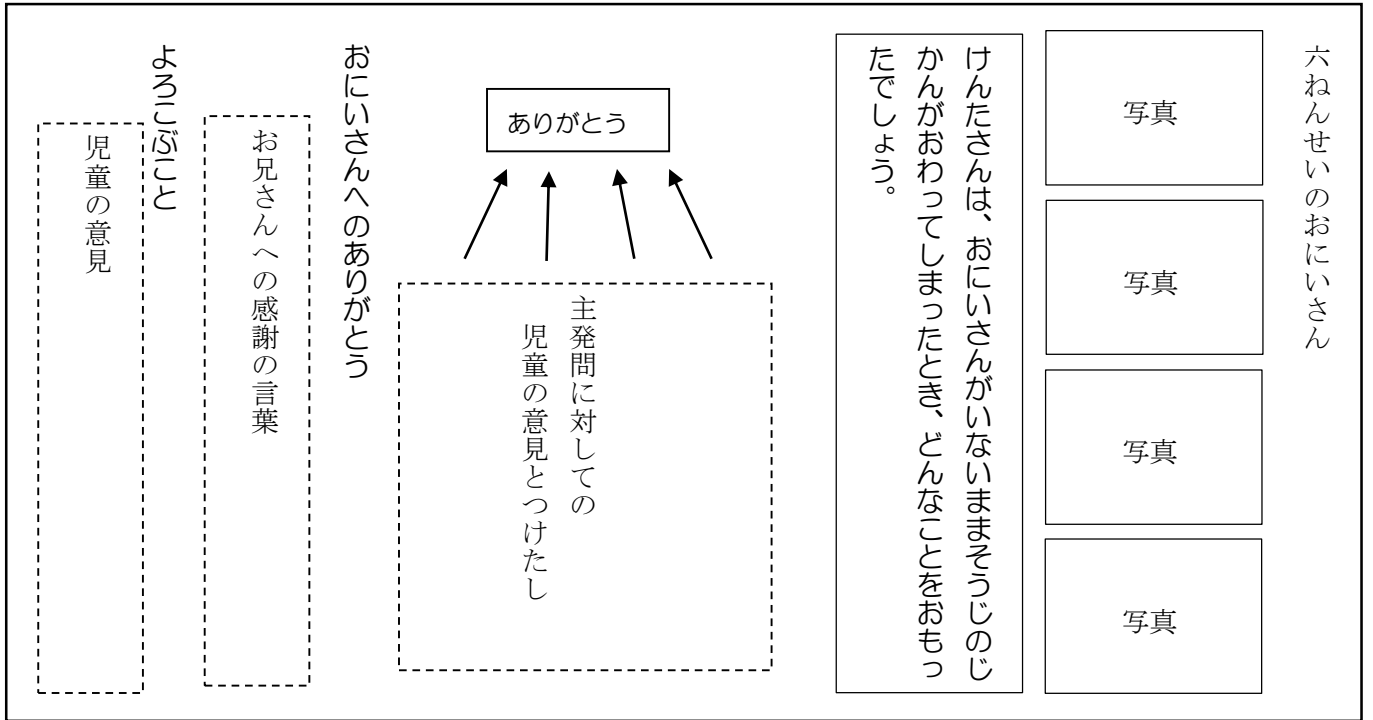
- ・ 日ごろお世話になっている上級生に対して感謝の念をもち、それを言葉や行動で伝えたいという気持ちが高まったか。

(5) 事後の指導

- ・ 学級活動で、6年生への感謝の気持ちをどの様に伝えるのかを話し合い、その後計画を立てて実践する。

6 反 省

7 高 評



ホワイトボード計画

ねんせいのおにいさん
まいにち
六ねんせいといっしょにそつじ
きしょう

六ねんせいのおにいさん
おにいさん
そつじはしよをてつだいにきてくれました。

そつじをしているだけ
なのにあせびっしょり
かべにもたれて
きゅうけいしました

そのあいだもしんじおにいさんはそつじを
しています。

つぎのひ

しんじおにいさんは、そつじはしよにきません
でした。

そつじ
なかなかうまぐでできません
いつもよりとまもつかれた
あまりきれいになっていない
そつじがおわらない

5じかんめのはじめのちやいむ
しんじおにいさんのかお
をおもいだしました